

現代日本建築家の都市における創作態度

建築家の言説による分析

正会員 ○宮本 尚宜*
同 山田 深**

創作態度 都市認識 現代建築
建築家 言説

1. 序 建築は固有の敷地に建ち、その周囲には様々な環境が取り巻く。そのような建築を取り巻く多様な環境は広い意味で都市といえ、都市に着目することは、建築家の創作において重要であり、住宅設計においては拠り所の一つになると思われる。住宅を設計するに際して、都市を捉え、そこにいかに関係を構築するかを思考することは、都市における住宅のあり方に関わる思考であると考えられる。それは満員電車に乗り込む状況に例えることができ、混雑した状況を把握し、それに対してどう身を置くか、自身の位置と向きを周囲との関係として示す行為にも似ている。このことから、創作における建築家の都市に対する思考は、都市をどのように認識し、その認識に対してどのように関係を取るかを分析することで見出すことができるといえる。そこで本論文では、建築誌に発表された建築家の言説を資料¹⁾として扱い(表1)、建築家の都市に対する認識を<都市認識>、<都市認識>に対する関係の取り方を《創作態度》として(図1)、これら2段階の分析が可能な言説を抽出し(図2)、都市との関係において住宅を創作する建築家の思考の一端を明らかにすることを目的とする。

2. <都市認識>: 建築家の都市に対する概念

2.1 都市認識のカテゴリ 建築家が都市をどのように認識しているかを明らかにするにあたり、資料となる言説を分類・整理した(表2)。都市に対する空間的な概念として10のカテゴリを見出した。一様な建物の配列を捉えた[画一]、雑多な建物の配列を捉えた[不均一]、建物が密集して建ち並ぶ[過密]、高密度地域における雑多な街並を捉えた[過密・不均一]、'住宅地と自然'などの都市の対照的な構成を捉えた[人工と自然]がみられた。建築家の感覚的な認識として、都市の無機的な側面を捉えた[非個性]、多量の交通量などによる都市の喧騒を捉えた[喧騒]、都市の閉塞的な状況を捉えた[閉塞]、統一的な都市構造を捉えた[統一]がみられ、また、空間の時間的な変化を捉えた[変動]がみられた。

3. 《創作態度》: <都市認識>に対する関係の取り方

3.1 《創作態度》にみられる4つの側面 <都市認識>に対する関係の取り方をKJ法的²⁾に分類・整理すると、《創作態度》には大きく4つの側面がみられた(図3)。都市と住宅とを統合する概念である{調和}、都市と住宅を分節する概念である{対立}、都市と住宅との関係を遮断しつつ開放する{調和・対立}、'都市を映し込む'、'向上させる'といった{非調和・非対立}がみられた。

3.2 《創作態度》の類型 《創作態度》における4つの側面をより詳細に考察する。{調和}には、無機的な都市などに対して表現を抑えることで都市との同化を意図した[適応]、雑多に建物が建ち並ぶ都市などに対し、形態や素材を周囲と揃え、都市との均衡を保つ[合わせる]、統一的な都市などを内部に取り入れる[取り込む]、密実に建物が建ち並ぶ都市などと内部空間を連続させる[つなぐ]がみられ

表1 資料リスト

No.	掲載年月	題名	No.	掲載年月	題名
1	1953	折原の建築から	72	1931	時局と建築
2	1953	青島の建築としての外廊	73	1931	近代建築上の建築
3	1951	玉井邸の計画について	74	1931	都市と新しいランドスケープ
4	1927	折原に於けるプランニングの概観	75	1931	「折原」と、折原の「建築」の概観
5	1943	白いレンガについての2,3のメモ	76	1940	「折原」の「建築」の概観
6	1971	折原の建築	77	1942	「折原」の「建築」の概観
7	1943	折原の建築	78	1946	折原の建築
8	1954	折原の建築	79	1947	折原の建築
9	1945	折原の建築	80	1949	折原の建築
10	1972	折原の建築	81	1949	折原の建築
11	1971	折原の建築	82	1941	折原の建築
12	1971	折原の建築	83	1941	折原の建築
13	1972	折原の建築	84	1941	折原の建築
14	1972	折原の建築	85	1942	折原の建築
15	1975	折原の建築	86	1951	折原の建築
16	1972	折原の建築	87	1952	折原の建築
17	1974	折原の建築	88	1953	折原の建築
18	1971	折原の建築	89	1953	折原の建築
19	1972	折原の建築	90	1956	折原の建築
20	1972	折原の建築	91	1959	折原の建築
21	1972	折原の建築	92	1959	折原の建築
22	1972	折原の建築	93	1959	折原の建築
23	1976	折原の建築	94	1959	折原の建築
24	1976	折原の建築	95	1959	折原の建築
25	1971	折原の建築	96	1959	折原の建築
26	1972	折原の建築	97	1959	折原の建築
27	1972	折原の建築	98	1961	折原の建築
28	1972	折原の建築	99	1962	折原の建築
29	1972	折原の建築	100	1962	折原の建築
30	1972	折原の建築	101	1963	折原の建築
31	1972	折原の建築	102	1963	折原の建築
32	1972	折原の建築	103	1963	折原の建築
33	1972	折原の建築	104	1972	折原の建築
34	1972	折原の建築	105	1972	折原の建築
35	1972	折原の建築	106	1973	折原の建築
36	1972	折原の建築	107	1973	折原の建築
37	1972	折原の建築	108	1973	折原の建築
38	1972	折原の建築	109	1973	折原の建築
39	1972	折原の建築	110	1973	折原の建築
40	1972	折原の建築	111	1973	折原の建築
41	1972	折原の建築	112	1973	折原の建築
42	1972	折原の建築	113	1973	折原の建築
43	1972	折原の建築	114	1973	折原の建築
44	1972	折原の建築	115	1973	折原の建築
45	1972	折原の建築	116	1973	折原の建築
46	1972	折原の建築	117	1973	折原の建築
47	1972	折原の建築	118	1973	折原の建築
48	1972	折原の建築	119	1973	折原の建築
49	1972	折原の建築	120	1973	折原の建築
50	1972	折原の建築	121	1973	折原の建築
51	1972	折原の建築	122	1973	折原の建築
52	1972	折原の建築	123	1973	折原の建築
53	1972	折原の建築	124	1973	折原の建築
54	1972	折原の建築	125	1973	折原の建築
55	1972	折原の建築	126	1973	折原の建築
56	1972	折原の建築	127	1973	折原の建築
57	1972	折原の建築	128	1973	折原の建築
58	1972	折原の建築	129	1973	折原の建築
59	1972	折原の建築	130	1973	折原の建築
60	1972	折原の建築	131	1973	折原の建築
61	1972	折原の建築	132	1973	折原の建築
62	1972	折原の建築	133	1973	折原の建築
63	1972	折原の建築	134	1973	折原の建築
64	1972	折原の建築	135	1973	折原の建築
65	1972	折原の建築	136	1973	折原の建築
66	1972	折原の建築	137	1973	折原の建築
67	1972	折原の建築	138	1973	折原の建築
68	1972	折原の建築	139	1973	折原の建築
69	1972	折原の建築	140	1973	折原の建築
70	1972	折原の建築	141	1973	折原の建築
71	1972	折原の建築	142	1973	折原の建築

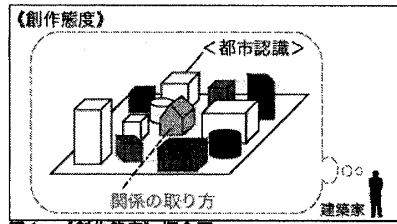


図1 《創作態度》概念図

No.46 住宅の文脈—外廊の構造(コンテクスト)から記憶の構造(コンテクスト)へ/ 宮永 譲 19910

《創作態度》

<都市認識>

一時ともに色褪せていく空漠とした環境、場特性を奪われた、無記憶の都市に投棄していく危険を予感するのは私だけではないはずだ。

関係の取り方

「折原の住宅(1988)」は折原に対しては単純な輪郭として、ボンと置かれていた。内側の折原が発掘されるだけの目立たない住宅は、ひとつの個体としての内部空間の容量を提示するだけだ。

「個性の欠如した都市に対して、その都市の一員となるような「目立たない住宅」という、都市に満足する態度として読み取ることができる。

図2 抽出例

た。〔調和・対立〕には、雑多に建物が建ち並ぶ都市や無機質な都市など、全ての〈都市認識〉に対して、関係を遮断しつつも開放するといった〔制御〕がみられた。

〔対立〕には、雑多に建物が建ち並ぶ都市などに埋もれまいとする〔自立〕、閉塞的な都市などに対して中庭などの内部空間を統合する要素を設ける〔求心〕、一様な建物が建ち並ぶ都市などから際立つ〔突出〕、雑多な街並を見下ろすことで都市と対立したかのような感覚を抱かせる〔俯瞰〕、無機質な都市や閉塞的な都市などと関係を絶つ〔遮断〕がみられた。〔非調和・非対立〕には、統一的な都市などを映し込む〔反映〕や、都市の喧騒などに対して向き合わない〔回避〕、無機質な都市などを活性化させる〔向上〕がみられた。〈都市認識〉において多くみられた《創作態度》を典型的な類型とし、A～Eの類型を得た³⁾。A〔統一〕-〔取り込む〕は、統一的な都市を内部空間に流動的に取り込むことで都市との関係を築いている。B〔過密〕-〔つなぐ〕では、密実に建物が建ち並ぶ都市において‘生活の気配がうっすら現れる微弱な連続性’などのように、内部空間と外部空間を連続させることで都市との関係を築いている。C1, C2, C3, C4は、認識した都市を制御しようとするものであり、例えばC4〔喧騒〕-〔制御〕では、都市の喧騒に対して防御しつつも遠望には開放するといった《創作態度》である。D1, D2は、認識した都市と関係を絶つ《創作態度》であり、D1〔不均一〕-〔遮断〕では雑多に建物が建ち並ぶ都市に

対して背を向けるように内部空間を思考している《創作態度》であり、前面道路に対して開口部を設けないといった例がみられた。E〔統一〕-〔反映〕は、統一的な都市を内部空間に映し込む、住宅の形態によって場の特性を顕在化するという《創作態度》である。

4. 《創作態度》の通時的傾向 《創作態度》の通時的傾向を表3に示す⁴⁾。1970年代では都市との調和的な関係はみられず①、他の年代と比較すると特徴的な年代であるといえる。また、1980年代から2000年代にかけて〔調和〕の割合は増加傾向にあり、特に〔つなぐ〕が多くの割合を占めるようになることから近年における特徴的な《創作態度》の一つであるといえる②。1970年代では多くみられた〔反映〕の割合が、減少傾向にあり近年ではみられないことなどが明らかになった③。

5. 結 以上、本論文では、建築家が都市をどう捉え、それに対してどのように関係を構築することで空間を思考しているかを分析・考察してきた。建築家の言説を分類整理することで、都市の認識に対する様々な思考を見出すことができ、典型的な類型をいくつか導くことができた。また、通時的にもいくつかの傾向を見出すことができた。

註1) 現代日本の代表的な建築誌のひとつである『新建築』(1950年~1984年)、『新建築住宅特集』(1985年~2006年)に発表された「作品解説」、「解説文」のうち〈都市認識〉、《創作態度》の2段階を明確に読み取れる言説を資料とし、785の「作品解説」、「解説文」から141の《創作態度》を抽出した。
2) KJ法: 川喜田二郎『発想法』(中央公論社)
3) サンプル数が4以上のものを《創作態度》の類型としている。
4) 1950-1959年:1950年代, 1960-1969年:1960年代, 1970-1979年:1970年代, 1980-1989年:1980年代, 1990-1999年:1990年代, 2000-2006年:2000年代としている。

表2 <都市認識>分類表

	画一		非個性
	不均一		喧騒
	過密		閉塞
	過密・不均一		統一
	人工と自然		変動

表3 《創作態度》の通時的傾向

年代	不均一	画一	過密	人工と自然	非個性	統一	変動	不均一	画一	過密	人工と自然	非個性	統一	変動
50s	33	0	0	0	33	0	0	0	0	33	0	0	0	0
60s	33	0	17	0	17	0	0	0	33	0	0	0	0	0
70s	0	0	0	10	10	20	0	0	15	20	10	15	0	0
80s	10	5	10	0	30	5	10	5	0	5	15	0	5	5
90s	5.5	1.5	4	13.5	25.5	13	4	4	1.5	14	7	0	5.5	0
00s	9.5	0	9.5	24	19	9.5	0	0	14	0	0	0	9.5	0

表3註) 縦軸に年代、横軸に《創作態度》を表記し、各年代における割合(%)を数値で示したものである。
50s:1950年代, 60s:1960年代, 70s:1970年代, 80s:1980年代, 90s:1990年代, 00s:2000年代としている。

類型	特徴	割合	代表作品
不均一	画一	7.8%	009-B1, 031-B1, 126-B1
過密	人工と自然		001-B1, 056-B1, 125-B1
非個性	統一		046-B1, 007-B1, 071-B1
不均一	閉塞	1.4%	101-B1, 041-B1
不均一	不均一		047-B1
人工と自然	取り込む	5.7%	045-B1, 061-B1, 066-B1, 123-B1, 136-B1
統一	変動		005-B1
人工と自然	人工と自然		108-B1, 126-B1
過密	不均一		081-B1, 086-B1, 093-B1, 133-B1
過密・不均一	つなぐ	11.3%	062-B1, 092-B1, 080-B1, 124-B1, 127-B1
閉塞	喧騒		141-B1
非個性	非個性		086-B1
統一	統一		088-B1, 096-B1
変動	変動		115-B1
不均一	C1		026-B1, 032-B1, 050-B1, 076-B1, 078-B1, 079-B1
画一	C2		038-B1, 056-B1, 100-B1, 107-B1
人工と自然	C3		064-B1, 066-B1, 073-B1, 086-B1, 109-B1, 139-B1
過密	制御		049-B1, 105-B1, 134-B1
過密・不均一	非個性	22.0%	106-B1, 114-B1, 054-B1
不均一	C4		003-B1, 026-B1, 035-B1, 039-B1
不均一	人工と自然		034-B1, 072-B1
人工と自然	人工と自然		065-B1
過密・不均一	反映		011-B1
非個性	12		023-B1, 037-B1
喧騒	(8.5%)		015-B1
統一	E		019-B1, 089-B1, 094-B1, 104-B1
変動	変動		048-B1
非個性	回避		012-B1
喧騒	2 (1.4%)		016-B1
不均一	向上		020-B1, 024-B1
画一	10		029-B1, 090-B1, 117-B1
過密	不均一	7.1%	033-B1, 130-B1, 091-B1, 118-B1, 132-B1
非個性	非個性		
不均一	自立	11.3%	036-B1, 063-B1, 083-B1
画一	画一		014-B1, 110-B1, 122-B1
過密	過密		008-B1, 078-B1, 107-B1
過密・不均一	不均一		097-B1, 131-B1
非個性	非個性		022-B1
喧騒	喧騒		060-B1, 119-B1
統一	統一		079-B1
不均一	不均一		019-B1, 027-B1, 087-B1
過密	求心	6.5%	004-B1, 040-B1, 135-B1
非個性	非個性		006-B1, 052-B1
喧騒	喧騒		058-B1
閉塞	閉塞		017-B1, 021-B1
変動	変動		030-B1
画一	突出		044-B1, 103-B1
過密・不均一	不均一	2.1%	113-B1
不均一	俯瞰	0.7%	074-B1
不均一	D1		016-B1, 028-B1, 067-B1, 069-B1, 126-B1
過密	D2		039-B1, 112-B1, 129-B1, 145-B1
過密・不均一	不均一		102-B1
非個性	非個性	17	082-B1
喧騒	喧騒	(12.2%)	042-B1, 057-B1, 121-B1
閉塞	閉塞		002-B1, 084-B1
変動	変動		013-B1, 064-B1

図3 《創作態度》類型図

図3註) 数字はサンプル数、()は全体に占める割合(%)を示す。

* コンテンポラリーズ
** 室蘭工業大学建設システム工学科講師

* Contemporaries
** Assist.Prof.Dept. of Civil Engineering and Architecture, Faculty of Engineering, Muroran Institute of Technology